



— 劇場が、街と世界をつなぐ —

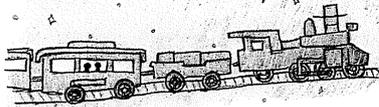
円山川の美しい景色を臨む小さな劇場から、公演のお知らせやここだけの話題をお届けします。

最近のできごと

青年団『銀河鉄道の夜』養父市公演

1/23(日)養父市立ビバホールで上演した『銀河鉄道の夜』では、たくさんのお客様にお越しいただき、温かいご感想をいただきました。「狭い舞台上で大きな物語を表現されて感動しました」「心に残る作品になりました」「舞台装置もとてもステキでした」「人とのつながり…こんな時だからこそ大切にしたい」私達にとって念願の初・養父市公演でしたが、青年団の公演を初めて観劇するというお客様も多く、上演できて本当によかったです。

※1/30日に上演予定の香美町公演は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、公演中止となりました。



青年団『S高原から』

2/19(土)から、高原のサナトリウムを舞台に、何気ない日常会話の中に「生と死」が存在する青年団初期の作品『S高原から』が上演されました。

今回はキャスト陣を若い俳優たちに一新したことで、「生」の光がより明るく見える分逆に、すぐ隣に存在する「死」の影に対する焦燥感がジリジリと炙り出されていました。この冬の江原で滞在しながら(雪かきもしながら)じっくり熟成された作品となりました。

※2月に開催される予定だった、たじま児童劇団の活動日(小学生の部・中学生の部ともに)と、小学生の部の『発表会』は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、3月に延期となりました。

劇場マメ知識

— これであなただもギョーカイ人!? —

「劇団員の横顔」で、舞台照明家さんをご紹介したので、今回は照明にまつわる舞台用語をチョットだけご紹介。

- ・暗転板付き…舞台と客席との照明を消して暗闇の中で舞台に出て、照明が付いたときにすでに舞台上に演者がいること。
- ・サス残し…全体の照明を消して、サスペンションライト(略してサス)だけで特定の登場人物を照らす。
- ・明転…暗い状態から明るくすること。
- ・前明かり…客席の天井部に設置されて、舞台を正面から照らす固定ライト。
- ・シュート…照明を当てる位置合わせをすること。



≪ 2022年度劇場支援会員募集中! ≫

現在、2022年度の劇場支援会員の入会を受けております。2022年度も、今年度までと同様、江原河畔劇場の全ラインナップに加え、江原河畔劇場以外での青年団公演や、全国8カ所にある連携劇場の公演を優先的にご覧いただけます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受けての公演中止もありましたが、青年団の公演、芸術文化観光専門職大学学生による『忠臣蔵・キャンパス編』、気鋭の若手劇団による公演や映画上映、たじま児童劇団の旗揚げ公演など、但馬地域だけで支援会員特典対象公演を17演目実施することができ、いずれも高い評価をいただきました。

2022年度も、劇場支援会員制度を通して「劇場文化」との出会いを創出できるよう尽力いたしますので、ぜひ来年度も引き続きのご入会をご検討いただけますと幸いです。

ご入会は、劇場で直接お申込み、またはコチラのQRコード(劇場WEBサイト)の「支援会員」ページからお手続き可能です。詳細については、劇場までお気軽にお問合せ下さい。



【劇団員の横顔】vol.5

劇団拠点が豊岡に移ってもうすぐ二年。移住した劇団員も少しずつ増えました。このコーナーでは、劇団員の知られざる(?)横顔を紹介をしていきます!

今回は、舞台照明家の【井坂 浩】さん。公演ではなかなかお目にかかれない裏方さんですが、舞台には欠かせない照明のお仕事。そのほか豊岡市地域おこし協力隊員としても活躍中の、出石のファニーガイです。

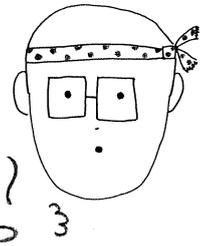
☆趣味「劇団の公演で行った先々のお土産屋さんで売っている手ぬぐい収集です。いつか江原河畔劇場の手ぬぐいも作りたいと思っています。」

☆ハマってること

「庭に雪が積もった時に全力ダイブすることです。雪ダイブの後は近所の温泉に浸かりに行きます。」

☆ひとこと

「豊岡に引っ越してきて2年が経とうとしています。江原に来てから色々な事があり、全国の演劇関係者や演劇ファンの中に「豊岡」「江原」と言う名前が浸透しつつあると感じています。(たくさんの心配もされていますが)これからも但馬・豊岡、そして江原河畔劇場を明るく楽しく発信して行ければと思っています。3年目もよろしくお願いいたします。」



えばらかはんげきじょう
江原河畔劇場

〒669-5311 豊岡市日高町日置65-10
電話:0796-42-1155(12:00-16:00)
FAX:0796-42-1156[公演期間中以外は日曜休館]